

## 第37回 もも脳ネット 理事会（コアメンバー会議） 議事録

日 時：2019年8月21日（水）19：00～20：00

場 所：川崎医科大学総合医療センター 5階カンファレンス室1

出席者：岡山医療センター（奈良井医師 岩田 MSW）

岡山赤十字病院（岩永医師 中野 MSW 田村 MSW）

岡山光南病院（宮森医師 平川 MSW 松井看護師）

岡山リハビリテーション病院（鼠尾医師 盛谷 MSW 橋本 PT）

岡山市立市民病院（出口医師）

岡山労災病院（足立医師 和田 MSW）

岡山協立病院（荒嶋 PT 鈴木 PT）

済生会吉備病院（難波医師）

岡山旭東病院（片岡 PT）

川崎医科大学総合医療センター（井上医師 潮 MSW 橋本 MSW 近常 MSW）

岡山市歯科医師会（角谷医師）

都窪歯科医師会（山本医師）

岡山県介護支援専門員協会（丸田 CM）

備前保健所保健課地域保健班（國富主任）

計 14 施設 25 名（敬省略・順不同）

### 議 事

#### 1. 今後のもも脳ネットのありかたについて

▶ 川崎医科大学総合医療センター 井上医師より下記報告があった。

- ・ 第 36 回 もも脳ネット理事会にて「急性期病院や回復期リハビリテーション病院を退院後、在宅生活を送る上での嚥下機能評価について」の話題が出たため、この内容について今後の対応を考えたい。現在、岡山ろうさい病院では、耳鼻科外来で嚥下評価を行ったり、短期間入院し嚥下の評価をする等の対応を行っているとのことである。他の医療機関では積極的に対応できていなかったり、対応していても他機関へ周知されていない機関がある。退院後の嚥下評価は入院していた病院、もしくは現在通院している病院で対応することが望ましいと考えている。各医療機関の嚥下評価に対する取り組みについて確認し、かかりつけ医やケアマネジャーへ周知できるようにしていきたい。
- ・ 第 55 回 もも脳ネット運用会議で追加意見の募集を募ったが、今のところ新たな意見は出ていない。
- ・ 第 38 回 もも脳ネット理事会では、以前提案された他の意見についても具体的に話し合いを行ってきたい。

#### 2. 脳卒中地域連携普及推進強化事業について

▶ 岡山ろうさい病院 足立医師より下記報告があった。

- ・ 他職種連携を強化するための研修会は 2019 年 11 月 28 日（木）14：00～西大寺ふれあいセンターで開催予定である。ケアマネジャーと訪問看護師を中心とした多職種を対象に、「意思決定支援のプロセスについて」をテーマにした講演を行う予定である。
- ・ 県民フォーラム、ワールドカフェは 2020 年 1 月 26 日（日）岡山ろうさい病院看護学校の講堂で開催予定である。今年度は「栄養管理や意思決定支援に関しての地域連携」をテーマに開催予定であり、管

理栄養士にワールドカフェへ積極的に参加してもらいたいと考えている。ブースは歯科医師会と栄養士会へ出展の依頼を行っている。

### 3. その他

- ▶ 岡山県介護支援専門員協会 丸田 CM より下記報告があった。
  - ・ がん患者の介護保険申請について、介護認定の決定を早めるために、主治医意見書へ別紙を添付することができる。しかし、そのことを知らない医療関係者がいるため、第56回もも脳ネット運用会議のミニレクチャーで情報提供をする予定である。

#### 【今後の会議日程】

- ・ 第56回もも脳ネット運用会議（運用総会）

日時：2019年9月25日（水）19：00～

場所：岡山赤十字病院

幹事病院：岡山リハビリテーション病院

- ・ 第38回 理事会

日時：2019年11月26日（火）19：00～

場所：川崎医科大学総合医療センター 5階カンファレンス室

（書記 川崎医科大学総合医療センター：橋本）

## もも脳ネットのあり方についての意見

管理栄養士のネットワークをもも脳に取り込んで、急性期から生活期までの栄養管理の連携を図っていくのはどうか。

ACPIについての考察を深めていきたい。

### 広報誌の刊行

冊子ではなくA3ほどの1枚で内容は、もも脳ネットの活動状況、県民フォーラムや勉強会等の案内や報告、大腿骨骨折や脳卒中に対してのコラムや情報などの掲載等

外来リハビリ紹介のシステム作り。

受け入れ可能なリハビリの領域や空き状況(歩行訓練や構音・嚥下訓練の可否など)を共有するなど、外来リハビリを促進する活動はできないか。

専門職が関わり安全に経口摂取をする道を探っていくため、今まで以上に急性期病院と在宅にかかわる医療機関や介護サービス施設の交流が進み、本音で話し合えるような環境づくりをしていく。

### 《第36回理事会にてでた追加意見》

- ・退院後の嚥下の評価について困っている。
- ・急性期病院や回復期病院を退院時の食形態のまま在宅で過ごしている方が多く、状态的に食形態のアップができないかと気になる方がいるため、外来等で嚥下評価ができる体制があればよいと考える。
- ・退院後の嚥下の評価については、直近で退院もしくは通院している医療機関に依頼して評価をしてもらうことがよいのではないかと考える。

### ①介護機関との事例検討会

地域包括センターでエリアを分けて事例検討を行い、それをもも脳ネットで発信して共有することで、地域との連携を深めていく。

### ②アセスメントシートの共通フォーマットの作成

アセスメントを岡山県内の連携として統一できることで、一定のアセスメント力、また、業務の効率にもつながると思われる。

運用総会にて持ち回りの幹事病院が講義テーマを決め、15分程度発表を行う。(幹事病院の職員が発表を行ったり、幹事病院が講師を手配したり等、疾患・治療、介護保険、退院調整等について)